



生活様式が大きく変わったJAや組合員の皆さまに贈る日本農業新聞の読みどころ集です。「この1週間を振り返る」ため週刊でお届けします。



日本農業新聞の読みどころ

週刊ダイジェスト

2021年10/28付

岸田内閣が発足 金子農相就任

自民党の岸田文雄(64)は4日、自民党の臨時国会で第100代の首相に選出され、岸田内閣が発足した。農相は同党衆議院議員の金子原二郎(77)が就任した。岸田首相は、米の需給緩和への対応策を早急にまとめるよう、指示した。14日に衆院選に向けて、19日に公示、31日投開票で実施する方針を明らかにした。

衆院選31日投開票

岸田首相は就任後、2021年度予算の編成に万全を期すため、立憲民主党と国民民主党の両党と連携し、速やかなる内閣の発足を果たす。また、米の需給緩和への対応策を早急にまとめるよう、指示した。



内閣発足後に会見する岸田首相(4日、東京・永田町の首相官邸で)

自民党の岸田文雄総裁(64)が第100代の首相に選ばれ、内閣が発足しました。農相には参院議員の金子原二郎氏(77)を起用し、米の需給緩和への対策を早急にまとめるよう、指示しました。衆院選に向けた公約に、新型コロナ対策を含む数

十兆円規模の経済対策をまとめる模様です。(10/5付1面)

首相、米対策を指示

岸田内閣の顔触れ			
総理	岸田 文雄 (64)	防衛	岸田 文雄 (64)
総務	金子 賢之 (60)	官房	松野 博一 (59)
法務	古川 久 (56)	デジタル行政・規制改革	初任
外務	茂木 敏充 (65)	復興・北方	初任
財務	鈴木 俊一 (68)	二之湯 智 (77)	初任
文部科学	末松 信介 (65)	野田 聖子 (61)	初任
厚生労働	後藤 茂之 (65)	山原 大志郎 (53)	初任
農林水産	金子 原二郎 (77)	小林 鷹之 (48)	初任
経済産業	秋田 光一 (58)	五輪	初任
国土交通	斎藤 鉄夫 (68)	若宮 健嗣 (60)	初任
環境	山口 壮 (67)	水原 誠二 (51)	初任
		磯崎 健一 (62)	初任
		近藤 正春 (55)	初任

農相就任会見

買い入れには慎重姿勢

金子原二郎農相は5日の就任会見で、米の需給緩和を巡り、政府備蓄米は「需給操作のために運用するのは制度の趣旨に沿わない」と述べ、国による買い入れに慎重姿勢を示した。2021年産米の作柄を受け需給対策が必要になった場合、産地の長期計画的な販売を支える米穀周年供給・需要拡大支援事業による対応を検討する方針を説明。「党や生産者の意見も聞きながら、できるだけ速やかに(対策を)考えていく」と述べた。



就任会見に臨む金子農相(5日、東京・霞が関の農水省で)



金子原二郎農相は就任会見で、米の需給緩和を巡り、政府備蓄米は「需給操作のために運用するのは、制度の趣旨に添わない」と述べ、国による買い入れに慎重姿勢を示しました。2021年産米の作柄を受け需給対策が必要になった場合、産地の長期計画的な販売を支える米穀周年供給・需要拡大支援事業による対応を検討する方針を説明しました。また、規制改革推進会議の改組について、「農業分野の改革は、地域に寄り添い現場を重視しながら進める」と強調しました。(10/6付1面)

今週の記念日
★10月16日
「国消国産の日」
JA全中は今年、消費者の食料安全確保への関心を高めるため、記念日を制定。国民が必要とし消費する食料はできるだけ国内で生産する「国消国産」への理解を広げる。1945年に国連食糧農業機関(FAO)が発足した日にちなんでおり、国連が81年にこの日を「世界食料デー」として記念日に定めている。

JA全国大会議案

次世代確保に重点

就農支援、対話運動も

JA全中は7日の理事会で、JAグループの今後3年間の指針を示すJA全国大会議案を決めた。10年後も農業や地域に貢献するため、次世代の組合員確保に重点的に取り組む。「次世代総点検運動」では新規就農や事業承継を支援し農業の担い手を育成、対話運動などによる組合員との関係強化にも力を入れる。29日の第29回大会で決議する。

Aは地域農業振興計画の策定に当たり、10年後を見通し次世代組合員数などの目標を設定。新規就農や事業承継の支援で担い手を育成し、組合員の意識に基

JA全国大会は3年一回。決議でJAグループ全体の方向性を合わせ、JAや県域の

今後3年間で重点的に取り組む五つの柱

- 1 持続可能な食料・農業基盤の確立
- 2 持続可能な地域・組織・事業基盤の確立
- 3 不断の自己改革の実践を支える経営基盤の強化
- 4 協同組合としての役割発揮を支える人づくり
- 5 食、農、地域、JAにかかる国民理解の醸成

対話を通じた不断の自己改革

議案の主題は「持続可能な農業・地域共生の未来づくり」。今後3年間の重点取り組みのうち、食料・農業基盤の確立に向けては次世代総点検運動を新たに展開するとして、J

実態に応じた取り組みにつなげる。全中は6月に組織協議案をまとめ、全国の意見を聞きながら議案策定を進めていた。

今後3年間のJAグループの指針を示すJA全国大会議案が決まりました。「持続可能な農業・地域共生の未来づくり」が主題。次世代組合員数の目標を設定するのをはじめ、新規就農・事業承継への支援など、担い手の育成・確保を展開します。また、対話運動の強化で組合員の意思に基づく組織・事業運営を目指すことを掲げています。(10/8付1面)

3JA連携栽培動画配信

直売出荷者技術底上げ

60品目 指導員が実演



先導付添の生育の良い枝を、主枝として伸ばしていきます。枝が混み合わないよう、内向枝は全て落とします。

ミカン苗木の芽かき作業を実演する動画(タクリスメール提供)

栽培技術の動画配信は、全国で初めて、3JAの垣根を越えた

静岡県JAとびあ浜松、JA晴れの国岡山、愛媛JAおちいまばりは、営農指導員が栽培技術を伝える動画の有料配信サービスを始めました。直売所出荷者や新規就農者に活用してもらい、品ぞろえ強化や所得向上につなげる狙いです。(10/4付1面)

稲×小麦 雑種誕生 性質「いいとこ取り」期待

東京都立大学と鳥取大学の研究グループは、世界で初めて稲と小麦の雑種を作り出しました。それぞれが持つ優良な遺伝資源を相互利用し、小麦に稲の耐湿性を持たせるなど、新たな育種につながると期待できます。受粉による交配ができないため、精細胞と卵細胞を電気刺激で融合し受精卵を作り出しました。(10/7付1面)

世界初、都立大と鳥取大



精細胞と卵細胞の融合で作った稲×小麦の雑種(東京都立大学提供)

日本農業新聞 東北支所 次長(編集担当) 原尻大志

調理家電、ホットクックを購入しました。食材と調味料を入れるだけで本格的な煮物や蒸し料理などが簡単にできます。かき混ぜや火加減の調節を自動で行います。予約調理もできるので、朝にセットすれば夕飯に食べられます。牛すじ肉の煮込みなどを作って食べたのが味わい深く、これから料理の幅が広がるのが楽しみです。

